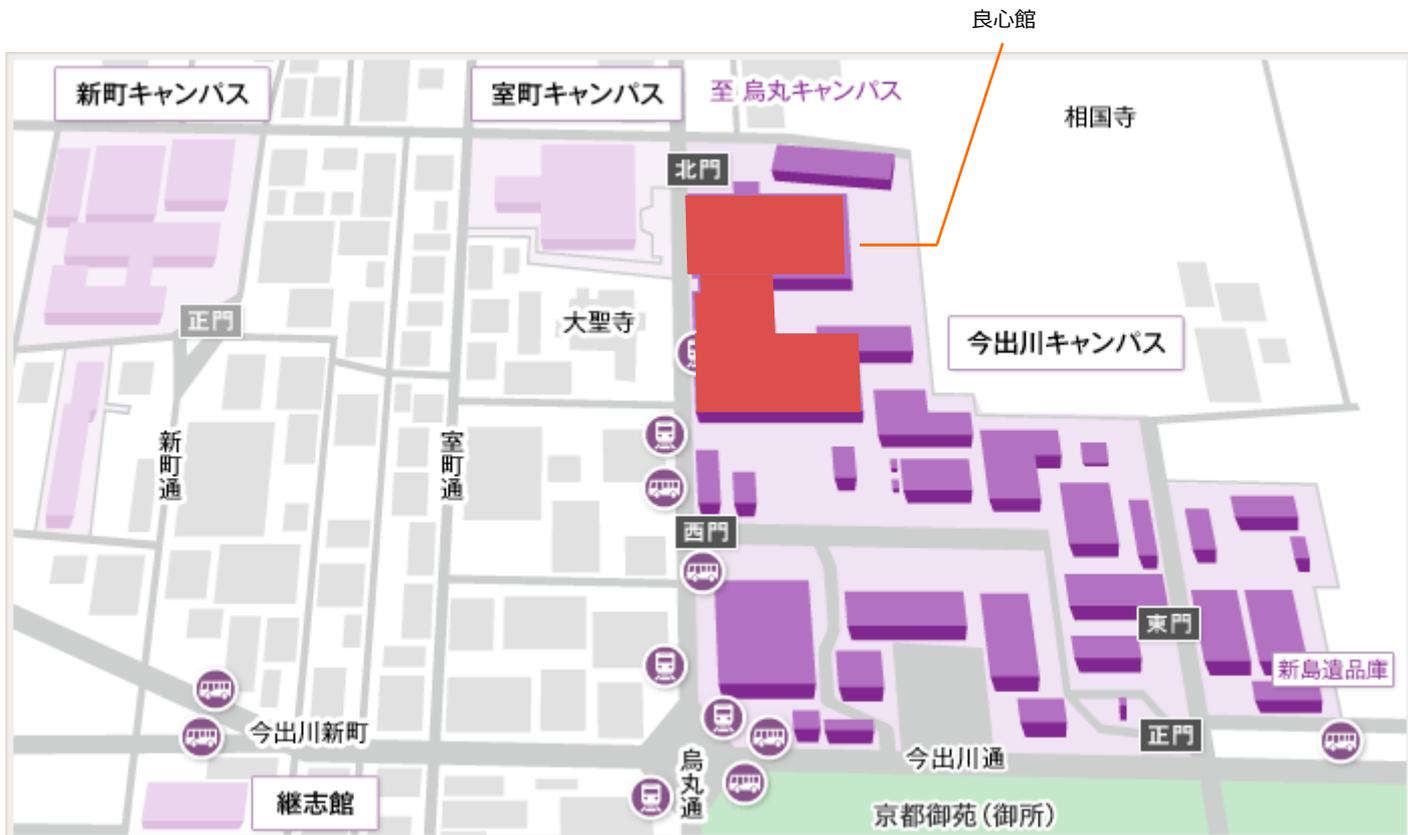


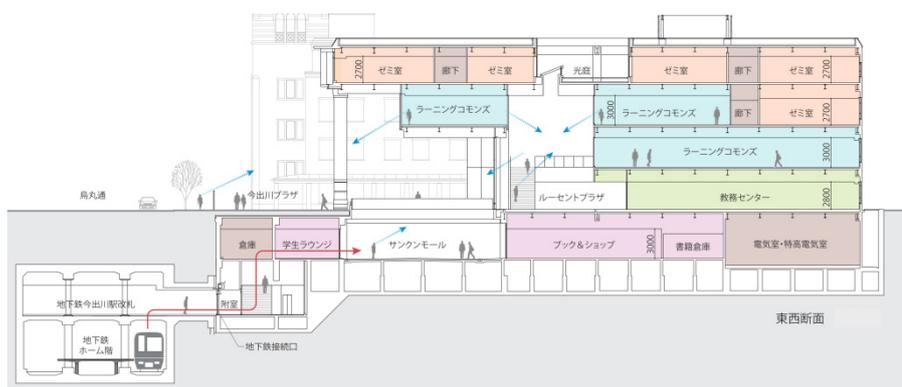
# 同志社大学

## 配置図

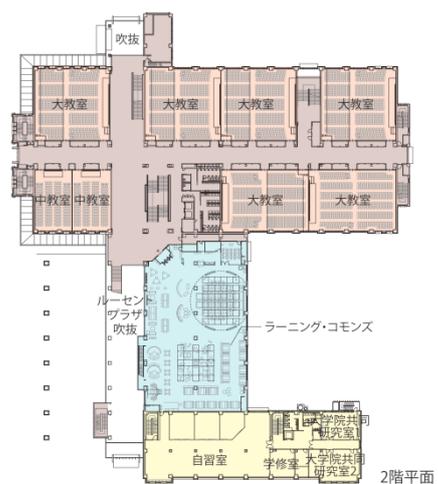


## ラーニング・コモンズと福利施設や講義室との位置関係

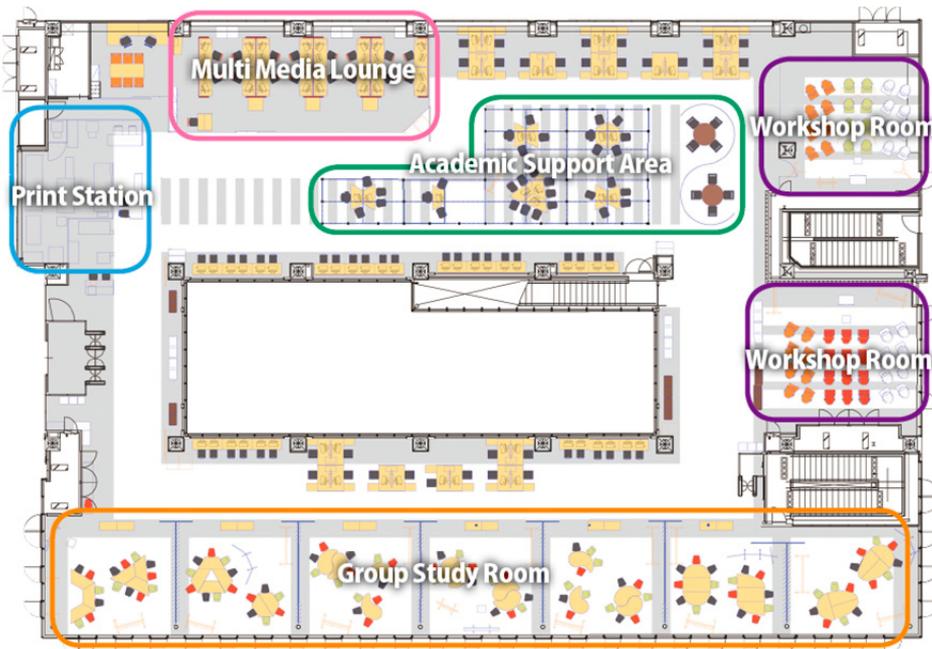
### 断面図



### 平面図



## 平面図



3階 リサーチ・コモンズ

### 「アカデミックサポートエリア」

アカデミック・インストラクターが学習相談やレポート作成指導を行っており、多数の学生が訪れている。

### 「グループスタディルーム」

7つの部屋を用意しているが、ニーズに合わせて、いくつかの部屋をつなぎ、ジョイント・ルームとして使用することも可能である。この空間は、建物外の屋外道路からも見えるため、ラーニング・コモンズ内で学生が学んでいる姿を見て、外にいる学生が刺激を受けるようなつくりになっている。

### 「ワークショップルーム」

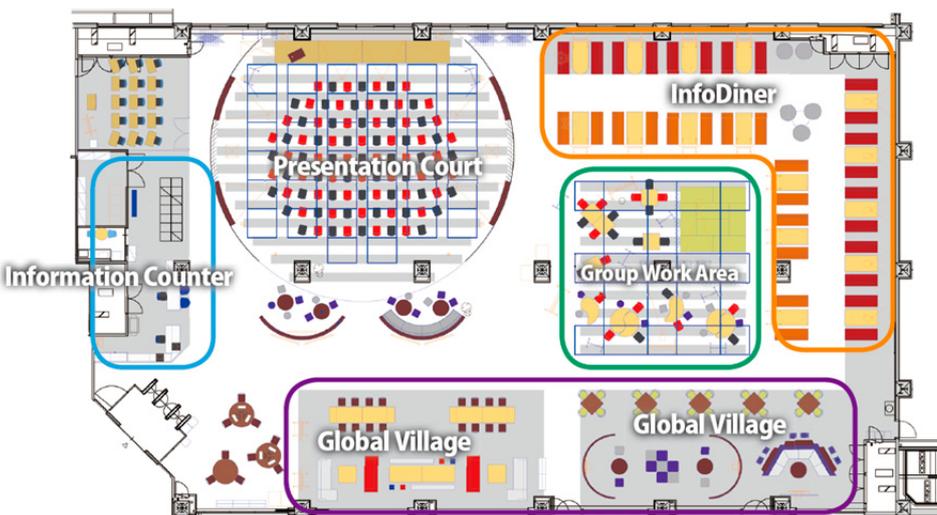
HD カメラや各種マイク、クロマキーのための設備等を備えたスタジオ仕様の部屋がある。

### 「マルチメディアラウンジ」

ワークショップルームの設備を使って作成したデータを使って動画編集や画像制作までできる。

### 「プリントステーション」

資料の印刷・製本のほか、ポスターセッション用の大判ポスター出力にも対応している。また、効果的な印刷方法の相談や、著作権遵守の指導が受けられる。



2階 クリエイティブ・コモンズ

### 「プレゼンテーションコート」

プロジェクタ 6 台と 240 型ワイドスクリーン 2 面を備え、企画に合わせたフレキシブルな使用が可能である。

### 他文化交流の場である「グローバルビレッジ」

留学コーディネーターが常駐し、気軽に留学相談ができる体制を整えており、実際、多くの学生が留学に向けてアドバイスを受けている。また、世界 170 局以上の海外放送を視聴しながら学習を進めることができるスペースもある。コモンズカフェ等のイベントも開催している。

### 「グループワークエリア」

グループ作業や小セミナーに使用するスペースで、畳型の台座もあることから、プレゼンテーションコートに運び、留学生向けの茶道の実習も実施された。

### ファミリーレストランのようなボックス席の「インフォダイナー」

単焦点プロジェクタと壁面ホワイトボード等を用意しており、グループ学習ができるスペースである。学生に非常に人気が高い。

## 整備概要

施設名称	良心館 ラーニング・コモンズ		
利用対象	神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部、グローバル地域文化学部 学生約 20,000 名 教員（専任・非常勤あわせて）約 1,600 名		
設置年度（工期）	2013 年度（2011 年 2 月～2012 年 10 月）		
整備手法	新築	構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
階数	2 階、3 階（良心館は地下 1 階～地上 5 階）		
のべ床面積	2,550 m <sup>2</sup> （良心館全体では 40,273.47 m <sup>2</sup> ）		
整備費用	建設：（良心館全体で）約 100 億（私立大学等施設整備補助金、学内整備費）		
設計	同志社大学今出川キャンパス整備設計共同企業体 （株）東畑建築事務所、（株）類設計室		
施工	戸田建設（株）		

## 整備内容

### ・整備のポイント

ここへ来ればおのずと学習がしたくなる「知的欲望開発空間」を全体コンセプトとして、柔軟性・快適性・感覚刺激性を持った空間となるよう設計し、学習支援のためのさまざまなサポートスタッフを配置していることが特徴である。

### 配置計画

文系学部の教育を京都市内に統合移転させるため、岩倉キャンパスに移転した同志社中学校の跡地に建築し、2012年10月に竣工した延床面積が40,000㎡を超える建物である。教室、経済学部・経済学研究科の研究室・共同研究室、ラウンジ、食堂、購買、今出川キャンパス教務センター等がある複合施設であり、京都市営地下鉄今出川駅の改札口とは連絡通路で繋がっている。

建物中央部の2階から3階にかけて日本の大学では最大級のラーニング・コモンズを設け、また、4階全フロアが小教室と演習室になっている。

### 平面計画、什器整備の特徴

2階は学びのコミュニティを創出するための、学びの交流・啓発空間「クリエイティブ・コモンズ」、3階はチューティング機能を有するアカデミックスキル育成空間「リサーチ・コモンズ」とし、各フロアが共鳴・共振して、ラーニング・コモンズ全体が主体的な学びの進展、授業外学習の質の転換を導くよう工夫した。

両フロアともに、可変性をもつ空間となるよう組み合わせ型の机や持ち運びのできるホワイトボード、利用しやすいAV機器等が備わる。また、学生が長時間滞在して学習できるよう、飲食可能スペースの設置や心地よい家具を用意し、快適性を高めている。そして、間仕切りを極力減らし、視認性の高いオープンスペースとすることで、学生は互いの学習行為が自然と目に入ることになり、学びのアトリック空間として機能するよう設計した。人の学ぶ行為や風景そのものが「情報」となり、相互に刺激し合うことを想定しているのである。

ラーニング・コモンズは学生が学習する「舞台」であり、学生は学びの演者にもなり、観客にもなる。そこで使う予備の机や椅子、ホワイトボードなどは舞台上で使う大道具、小道具であるという考えから、「舞台袖のような倉庫」「開かれた倉庫」として常に学生の視野に入る範囲に置かれている。これは、学内の他のラーニング・コモンズを利用した経験のある教員からの意見を反映したものである。

### ・運営・管理

運営・管理は、教育支援機構 学習支援・教育開発センターが担当。学内の多くの組織と委託先企業が協力組織として加わっている。

利用は、同志社大学の正課科目を登録している学生に限定している。（他大学の学生でも、単位互換協定により、本学科目を登録履修していれば可）

- ・アカデミック・インストラクター（教員3名）
- ・学習支援コーディネーター（職員1名）
- ・学習支援アシスタント（学部生数名）
- ・ラーニング・アシスタント（大学院生19名：2015年度）
- ・情報探索アシスタント（現在はアカデミック・インストラクター1名が兼任）
- ・留学コーディネーター（国際センター職員1名）
- ・留学アシスタント（国際センターから留学経験者数名）
- ・ITサポートスタッフ（ITサポートオフィスから専門家・学生数名）
- ・プリントステーション・スタッフ（業務委託2名）
- ・受付カウンター（業務委託4名）

### 利用者サポート

学習科学の見識をもつアカデミック・インストラクターやアシスタントスタッフによる学習相談やレポート作成指導を行っている。また、アカデミック・インストラクターによるアイデア拡張法やプレゼンテーションの構成法、学術論文の読み方といったセミナーも開催されている。

マルチメディアラウンジには専属スタッフが常駐し、画像処理や動画編集など

デジタル技術を手軽にマスターできる。

プリントステーションにもスタッフが常駐、効果的な印刷方法の相談や、著作権遵守の指導が受けられる。

## 計画・設計プロセス

### ・整備の背景

#### PBLをはじめとする全学共通教養教育のための学習環境整備

これまで蓄積してきたPBL教育プログラム（GP採択）等に合う学習環境の整備を行った。今後増加するアクティブ・ラーニングを、授業外学習として展開できる環境整備を想定した。

#### 文系学部のキャンパス統合

この学習環境は、従来1・2年次生と3・4年次生が別キャンパスで学んでいた文系学部を、市内の今出川校地に統合するのに伴い用意したものである。単なるキャンパス整備に終わらせず、文系、特に人文・社会系学部の学習に焦点をあてた新しい学習空間を創造し、教学改革の起爆剤としたいという意図のもと、2006年度末から検討を開始。

#### 同志社大学が目指すリベラルアーツや良心教育との深い結びつき

自分の学んだことが他人の役に立ち、他人の学んだことが自分の役に立つ。「共に知る」「共に学ぶ」ことは、市民社会の基盤となる価値観となるものです。

良き市民として生きるための姿勢や覚悟を磨くために、教養や良心の本質を知る。それを学術における「学び」を通して身につける。ラーニング・コモンズが良心館の中に設置されているのは偶然ではありません。ラーニング・コモンズの設置には、教学改革以上の思想が横たわっていることを覚えておいてほしいのです。

（「学びの共有空間を創る-ラーニング・コモンズが目指すもの」（『良心之全身に充滿シタル丈夫の起り来ラン事ヲ Doshisha Sprit Week 講演集』,2013）p.183-187）

### ・整備の目的

#### 学習支援と教育改善

これまで、PBL教育などアクティブ・ラーニングの実践を蓄積するとともに、国際化拠点整備事業（グローバル30）等による国内学生と外国人留学生の相互啓発・交流活動の浸透を図ってきた。

これらの取り組みを核として、学習支援と教育改善をさらに推進させ、学生の主体的な学びと授業外学習の質向上を図るため、新たにラーニング・コモンズを設置することを決定した。それは、施設や設備の先行投資ではなく、新たな高等教育を開拓する「思想」「理念」への先行投資なのである。

教育改善については、FDのみに頼るのではなく、Faculty DevelopmentとStudent Developmentを併行させて教学改革を進めたい。従来のFD観では、教員が変わること（教育力改善）で学生の学びの質向上を導くと考えがちである。その一方で学習支援を実施することで学生の能力の向上を図れば、逆に教員にも影響を及ぼし、螺旋的に両者が向上するのではないかと。授業外であれば教職員や学内関連組織が協働して、学生に直接働きかけることができる。その環境や施設・設備を準備し、相乗効果を期待する。

#### 「学び方を学ぶ」ことを体感する場

教室棟に設置したのは、学びが図書館という限定された世界に閉じこもることなく、より広い文脈のなかで「学び方を学ぶ」ことを体感する場として位置づけたため。（PBL教育。初年次教育の蓄積）

## ・構想から工事までのプロセス

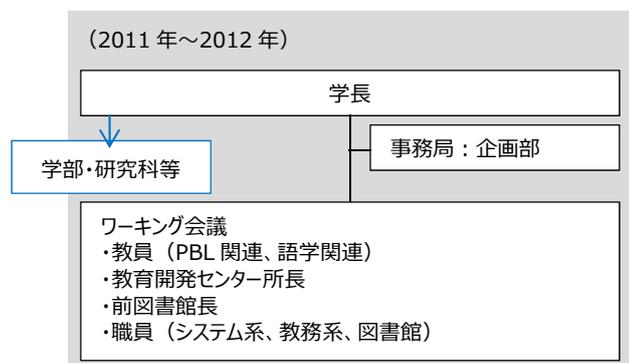
ラーニング・commonsの設置に関しては、2006 年度末から検討を開始し、キャンパス整備計画に組み入れて議論を重ねた。

	構想	計画・設計	工事
6年前	ラーニング・commonsを整備計画に含めることを確認		
5年前	ラーニング・commons具体化検討委員会での議論	基本計画策定	
4年前	ラーニング・commons具体化検討委員会の答申	基本計画策定	
3年前	大学執行部内に WG 設置	基本計画案をブラッシュアップ	
2年前	大学執行部内 WG で検討	具体的な設計デザイン案	
1年前	大学執行部から基幹会議（大学評議会等）で審議・承認	最終設計デザイン確定 什器・備品の選定 運営スタッフ（教員採用人事）	2011年2月 ～2012年10月
完成	2013年4月1日 開設・運営開始		

## ・計画・設計の推進体制

基本方針の策定にあたり、2011 年より大学執行部内に設置されたワーキング会議にて検討し、学長提案として学部・研究科等に示す形で決定された。その際、教育開発センターを学習支援・教育開発センターと名称変更し、ラーニング・commons運営の管轄部署とする方針を決定。

2012 年から 2013 年 3 月まで、学習支援・教育開発センター内にラーニング・commons開設準備ワーキンググループを設置し、運営内容の検討を行った。



## 整備後の評価と今後の展望

### ・利用状況

開設以降、利用者は平均して、平日で約 3,000 名の賑わいを見せている。

またアカデミックサポートエリアでの学習相談は、開設（2013 年度）から年を経るにつれ相談延べ人数が増加。（4 月～7 月の 4 ヶ月で 2013 年度は 280 名→2015 年度には約 2 倍の 776 名に増加）

学年別では、1 年次生が圧倒的に多く（776 名中 530 名）、相談内容は、特に「レジュメの作り方」「レポートの書き方」についての相談が多くを占める。

アカデミックサポートエリアへ寄せられた質問は集約し、学生が学びのどこで困難を感じているのか、知識・技術面でどこにニーズがあるのか等を学習支援検討部会にて委員を務める各学部教員へフィードバックしている。

年間を通して開催されているアカデミックスキルセミナー、commonsカフェをはじめ、多くのイベントが開催されている。

用途（授業やイベント等）	利用者属性	頻度
アカデミックスキルセミナー（授業連携型） （アカデミック・インストラクターによるアイデア発想法やプレゼンテーション構成法等のセミナー）	同志社大学の学生	2016 秋学期 19 種類 34 回実施
commonsカフェ （同志社大学内外の研究者を招いて行う気軽なトークイベント）	同志社大学の学生・教職員	月 1 回程度
茶道、生け花、座禅その他（日文セ・留学生科目）		
各学部のゼミ報告会等		
学部・研究科主催のセミナーや講演会		
学生企画の学習イベント		
国際センターの留学案内/日本案内行事		
国際交流イベント （コロンビア、コーネル、MIT、AKP、KCJS）		
PBL 科目等のプレゼン研修/成果報告（ポスター）		
キャリアセンターのキャリア教育イベント		

### ・整備の評価

良心館ラーニング・commonsの利用に関するアンケート調査を実施。ラーニング・commonsを高頻度で利用する学生ほど、学習意欲が高まり、学習成果を自認しており、引き続き詳細な分析は必要だが同志社大学のラーニング・commonsが学生の授業外学習に直接的もしくは間接的にプラスの効果をもつことがわかってきた。

### ・整備後の課題

- ・安定して適任者を採用する方途の確立（任期は専属教員 5 年、ラーニング・アシスタント 1 年）
- ・ラーニング・アシスタント研修プログラムの開発・改善と質保証体制（外部評価含む）
- ・アカデミックスキル指導プログラムの常なる検証体制（学内評価・外部評価含む）

### ・今後の展望

- ・数年後に予定される、アンケート分析結果・行動観察分析結果に基づく、空間レイアウト変更
- ・計画的な什器備品の更新計画および新規機器類の教育利用に関する企画調査
- ・詳細な分析や新たな調査も検討  
得られたアンケート結果をさらに詳細に分析を進める。  
また今後、アンケート調査、ヒアリング等の定性的な調査等、学生の主観による調査に加えて直接評価（科目試験、ルーブリック、成績（GPA）等）のデータ分析を行うことも検討している。
- ・評価手法の確立  
詳細な分析を進め、数年のうちに評価手法を確立し、以降は経年の推移分析に入ることや、学内教学 IR へのつながりをもたせていくことを目指している。

## 参考資料

- ・松本仁美,井上真琴「学習を促し教学改革を導くラーニング・コモンズ：同志社大学が意図した学習空間」(『図書館雑誌』,Vol.107(9))
- ・井上真琴「ラーニング・コモンズの理念と目的を探して：同志社大学の経験から」(『IDE 現代の高等教育』,No556) p.17-22
- ・井上真琴「学習行動の変容を喚起する施設・空間を考える」(『季刊文教施設』,61 2016 春号) p20-21
- ・「学びの共有空間を創る-ラーニング・コモンズが目指すもの」(『良心之全身ニ充滿シタル丈夫の起り来ラン事ヲ Doshisha Sprit Week 講演集』,2013) p.183-187
- ・CLF REPORT Vol.23 ([http://clf.doshisha.ac.jp/clf\\_report/latest.html](http://clf.doshisha.ac.jp/clf_report/latest.html))
- ・浜島幸司・井上真琴・岡部晋典・鈴木夕佳・野田宣彦・松本仁美・三宅重彰・山田礼子, 2015, 「ラーニング・コモンズが学生にもたらす学習成果－同志社大学良心館 LC 利用アンケート調査から－」『大学教育学会第 37 回大会報告要旨収録(於：長崎大学)』, pp.208-209.
- ・浜島幸司・鈴木夕佳・岡部晋典「良心館ラーニング・コモンズ高頻度利用者の学習特性」(『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』(6), 3-27, 2015-10-23) (<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005674761>)
- ・鈴木夕佳・岡部晋典・浜島幸司, 「利用実態からみるラーニング・コモンズの学習行動：学年別の差異に着目して」(『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』(6), 51-73, 2015-10-23 ) (<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005674763>)